



森のなかま

2013年12月号
NO.68 (継続213号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

『日本触媒・湯河原万葉の森』がオープン！！

11月9日(土)

< 日本触媒の森事業部長 (副理事長) 坂齋 明 7期 >

式典で御挨拶をされる
株式会社日本触媒 池田社長



事業看板の除幕式



「日本触媒・湯河原万葉の森」は株式会社日本触媒様が森林の様々な働きへの理解を深めるために、間伐などの森林づくり活動・自然観察会などの環境教育活動などを行うもので、その開所式が11月9日(土)に開催されました。

開所式には主催者の株式会社日本触媒池田社長、来賓として湯河原町富田町長、国土緑化推進機構梶谷専務理事、かながわトラストみどり財団川本理事長を始めとして、活動参加者など約100名が参加されました。式典は池田社長、来賓のご挨拶のあと事業看板の除幕式、活動開始を記念して事業看板の近くに、昨年間伐したヒノキを利用した樹木名板を子どもたちが取り付けました。

式典終了後、活動参加者は植樹活動、間伐活動の各班に分かれ体験活動を行いました。植樹活動は事前に(草の)カヤや灌木などが一面に生い茂る緩やかな斜面の草刈をし、植樹用に地拵えがされた植樹場所で、湯河原町の木である“ヤマザクラ”10本と花粉の少ない“スギ”100本を植樹しました。来年からは植樹した木の成長を助けるべく、下草刈り活動も必要で、植樹した木の生長を見守りながらの活動になるでしょう。一方、間伐活動は6班に分かれ事前に伐倒時にまわりの木に架からないような選木された“32年生のヒノキ”を各班1~2本を間伐しました。伐倒時まわりの木に架かってしまうものもあり、苦勞された班もありましたが、間伐の楽しさ、爽快さを十分体験できたと思います。

樹木名板取付け



早速、森林づくり活動開始



植樹

全員で記念撮影



間伐



『湯河原万葉の森とその周辺』

(周辺には有名な湯河原梅林、源頼朝ゆかりのしとどの窟、クスノキの純林などがあります)

道標



目印になる記念碑



活動場所の万葉の森

空から見た湯河原
湯河原町ホームページより



トンネル 林道入口ゲート しとどの窟入口 しとどの窟 湯河原梅林と幕山



自然観察部会 第75回森林探訪 河村城址と洒水の滝「初秋の山北を歩く」

日時：9月28日(土) 9:45～15:00、快晴

< 自然観察部会 小林 保喜 9期 >

「水源環境保全・再生市民事業支援助成金」を受けて実施

参加者61名(申込72名)男性23名、女性38名

台風18号が秋を連れて来た。本番当日は、朝から極上の秋晴れとなりところが弾む。今回のコースは「美しい日本の歩きたくなるみち500選」に選ばれている。また、コースの一部は、山北町のセラピーロードにも指定されている。秋の気配を感じながら、四季の自然と共に生きた先人たちが残した足跡を参加者の皆さんと一緒にゆっくり辿ることになる。

探訪のポイントは次の4つとなる。

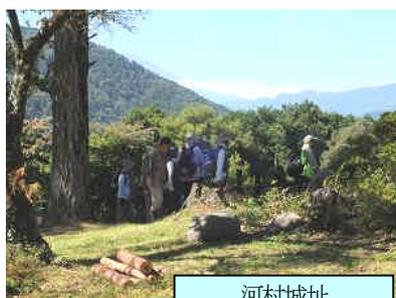
1. 初秋の山北の自然に触れてもらう
2. 河村城址へ向かう散策路を歩きながら、自然の地形を巧みに利用した山城の構造について、一緒に考えてもらう
3. 田畑を中心とした田園風景を楽しみながら山北町の水の流れについて考えてもらう
4. 雄大な洒水の滝の流れを目の前にして、絶えることのない水の流れの不思議について考えてもらう。



山北駅舎

懸念された小田急新松田駅とJR御殿場線の乗り継ぎは、松田駅改札に誘導案内のインストラクターを2名配置したことによりクリア、予定通り9時10分山北駅鉄道公園にて参加者の受付開始、オリエンテーション終了後、61名が9班に分かれて河村城址を目指す。

きつい登り坂を歩くにつれ自然の地形を巧みに利用した山城の造りと、中世の先人達の知恵と工夫に感心し、しばし小さな時間旅行を楽しむ。そして河村城址で30分の散策と自然観察を楽しんだ後、本城郭広場での昼食、初秋のやわらかな陽だまりの中、自然と会話が弾む。



河村城址



河村城址碑



河村城址での散策

次の目的地「洒水の滝」へ向かう道のりで、田畑を中心とした田園風景を楽しみながら、降った雨は「山林だけではなく田畑がしっかりと受け止め、私たちの生活に多くの恵みを与えている」ことを学ぶ。

日向の田園で
水の流れについて考える

雄大な洒水の滝

そして、最後の目的地「洒水の滝」では、雄大な滝の流れを目の前にして、絶えることのない水の流れの不思議について学習を行う。ゴールの山北駅で締めくくりを行いヒヤリハットがなかったことを確認し解散となった。

スタッフ

(インストラクター15名) L小林保喜⑨、高崎④、武者⑦、野田⑧、松本⑧、女川⑨、内野⑨、水口⑨、小林富二男⑩、福島⑪、吉田⑪、松永⑪、鳥飼⑪、大塚⑪、小池⑫ (看護師) 小林様

私の認識

野鳥その116

高橋 恒通

ご案内したい冬鳥の海ガモはほぼ目的を果たしていますが、冬季の北海道で主に観察できるのが、コオリガモ(漢和名:氷鴨、英名:Long-tailed Duck、又は^{オールドスクア}Oldsquaw)で、成鳥♂は英名の通り尾羽が長い海ガモと、コケワタガモ(漢和名:小毛綿鴨、英名:Steller's Eider)と言う海ガモは、私自身関心の強い野鳥ですが、関東地方で生きた個体の観察は不可能と確認していますので割愛いたします。但し、若し本稿ご愛読の方で冬の根室の花咲港へ行く機会のある方はコオリガモに逢える確率は高いと思います。

従って今月は同じ冬鳥のカモでも西日本に多いツクシガモ(漢和名:筑紫鴨、英名:Common Shelduck、体長L=63 cm)です。

成鳥は♂♀ほぼ同色の体色で、嘴と脚が赤く、嘴の基部が少しコブ状に膨らんでいます。頭部と肩羽は黒色ですが、光線の角度で緑色の金属光沢が確認できます。また胸から背にかけてレンガ色の帯があり、それ以外は全て白色です。

後稿でガンカモ科の“カワアイサ”と言う野鳥を紹介する予定ですが、ツクシガモはそのカワアイサの成鳥♂に体形、体色共によく似ています。でも相違点は、カワアイサにはレンガ色は一切ありませんし、嘴もツクシガモより細長く先端が猛禽類の如く鉤状です。

我国でのツクシガモの棲息環境は干潟や港や内湾と言

われています。名前の通り九州は福岡県和^{ワジロ}白干潟には毎年渡来するそうです。

行動様式は、干潟を好み潮の引いた水際などで、頭を下げてのそのそ歩き乍ら嘴を泥水の中に突っ込み、巻貝や二枚貝などを好んで採食するので、英名の Shelduck と命名されたものと私は認識しています。貝類の外にも甲殻類や小魚なども捕食します。

私が神奈川県下でツクシガモを観察したのは4年

前の1月に酒匂川の下流でした。初めはカワアイサのみかな…と思ったのですが、汀の砂の所を移動していたので双眼鏡で確かめるとレンガ色の帯があり、スコープで観ると嘴の基部がコブ状になっており、これはツクシガモに間違いないと確信し、たった1羽のこのカモに大変興奮しました。

ツクシガモは、これまでのカモ類と異なり繁殖地はユーラシア大陸の温帯域です。それが同じ温帯域に在る日本の博多湾や有明海一帯で越冬する不思議、更にその中の1個体が約2千km北東に在る酒匂川へ来る謎、私には非常に興味深いものをツクシガモに対して抱いております。

次は同じ冬鳥のアカツクシガモ(漢和名:赤筑紫鴨、英名:Ruddy Shelduck、体長64 cm)をツクシガモとの簡略比較でご案内します。



アカツクシガモ ♀

成鳥♂♀ほぼ同色の体色は、全体がレンガ色、嘴と脚は灰黒色、頭部が黄白色、

♂の首に黒色の輪があります。棲息環境は湖沼、河川、干潟、畑、埋立地などです。繁殖地はツクシガモとほぼ同じですが、我国への越冬渡来は、西日本ばかりでなく関東や東北地方へも来ますが、渡来数が少なく不定期なのです。

採食もツクシガモと若干異なり、水草や畑地、荒れ地で青草など植物質を好むようですが動物の死体なども食べることがあります。

冷静に考えてみれば、ツクシガモ、アカツクシガモ共に繁殖地がユーラシア大陸の温暖帯なら我国で越冬ではなく、繁殖行動があってもいいのではないのでしょうか…謎ですネ。

〈参考資料〉

◎日本の野鳥, 山溪ハンディ図鑑 7, 写真・解説/叶内拓哉, 分布図・解説協力/安部直哉, 解説(鳴声)/上田秀雄, 山と溪谷社

◎日本の野鳥, 山溪カラー名鑑, 編・高野伸二, 解説・浜口哲一他 3名, 山と溪谷社

◎ (イラスト) 広報 大塚 晴子

やどりき事業部会 『 やどりき周辺の山歩き(番外編) 』 ～初秋の西丹沢けもの道探索～

10月14日(月)

< やどりき事業部会 福島 孝弘 9期 >



美しいイワシジャン

今回のやどりき周辺の山歩きは、番外編として西丹沢のけもの道をこの地域に詳しい辻村さん(9期)の案内で探索しました。ルートは西丹沢自然教室の先の白石沢キャンプ場で林道と分かれ、雷木沢とヌタゴヤ沢の間の尾根を登り水晶沢の頭で稜線に出ようとするものです。



急勾配を歩く

最初は人工林の作業径路を行き、次いで現れた崖際の植生保護柵の横の細い不安定な踏み跡には細心の注意が必要とされました。標高 900M 付近の広い尾根のあるかないかの踏み跡を辿り景色を楽しんでいると、再び手を使って登る道なき道。稜線近くではヤブコギを覚悟していましたが、鹿の採食のためかまばらなヤブで、登るには楽ながら寂し

さを感じさせる状態でした。稜線に出たからは昼食の後、登山道を白石峠から下山。



全員で

紅葉にはまだ早い時期でしたが、イワシジャン、ヤクシソウ、シロヨメナ、ホトギスが目を楽しませてくれ、ミツバアケビ、サルナシ、コバノガバズミが舌を喜ばせてくれました。また、堂々たるブナ、モミの大木はまさに立派の一言でした。帰路、中川温泉「ぶなの湯」では、普段なかなか行く事のできないコースを歩いた充実感にひたりながら汗を流しました。

参加者:案内-辻村⑨ L 福島⑨ 佐藤⑤ 滝沢⑤ 内野⑨ 水口⑨ 上宮田⑪ 門澤⑫

(写真撮影: 水晶沢の頭での全員写真-水口俊則 氏、その他-福島孝弘 氏)



本の紹介

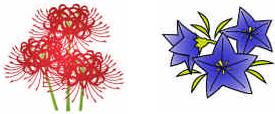
『森林飽和』講演と本の紹介

本年度の森林文化講演会は、平成26年2月16日(日)に『森林飽和』の作者太田猛彦氏・東大名誉教授に講演していただきます。この本の紹介は4月号 5ページで 7期の渡辺 公氏が紹介されています。振り返ってご覧ください。



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

活動短信



今回の掲載は
9/14～10/21です。
投稿頂いた中には、紙面の都合上、次号以降の掲載になるものもあります。
予めご了承下さい。

**

今月号の活動短信はNW活動が多く増えとなりました。

◆ 県民参加の森林づくり（竹林整備）

日 9月14日(土)8:00～14:00、雨のち曇り

場 葉山町木古庭

参 78名（申込者94名）

財 内海課長、初山様 看 青木様

スタッフ 横須賀三浦地域県政総合センター 市川部長
ダイワハウス 岩橋様

イ L 中元⑩、安部⑤、杉戸⑥、小野⑦、白畑⑦
草野⑧、村井⑨、上田⑩、海野⑩、小笠原⑩、
木島⑩、山下⑪、吉田⑪、
渡辺(敏)⑫、石川⑫、宮下⑫ 研 中村⑪

今にも降りだしそうな雨はバスで移動中に降り出してしまう。バスを降りた所が高架橋下なので、急遽ここでオリエンテーション、そしてストレッチ体操をしました。身支度し現場へ歩き始めたころから小雨となり現場に着いた時には上がりました。

竹林は径が15～20cm、高さ18m位の孟宗竹で少し整備された跡があり、今年出た竹は少なく筍堀が良く行われていると感じました。整備に入る前に竹を伐る時のポイントそして竹林整備の注意事項を説明しました。作業は5班に分かれて開始し、最初は戸惑う人、また急斜面で苦勞をしいられた班もありましたが、インストラクターのフォローで解決し、作業終りの12時には予定した通りに整備され、綺麗になった竹林をみて満足な笑顔が見られました。ヒヤリハットも怪我もありませんでしたが、一人が軽い熱中症にかかり看護師さんのお世話になりました。

(記 中元 秀幸 10期)

◆ 横浜市立日下(ひした)小学校

「林業の体験をしよう」

日 9月19日(木)、晴れ

場 小田原市久野(くの)水源林

参 小学5年生 90名、教師等引率者 9名

イ L 小笠原⑩、井出①、渡辺孝③、宮本④、

伊藤⑦、小野⑦、渡部公⑦、武者⑦、加藤(久)⑫
台風18号の影響で実施日が延期された中で当日を迎えました。日下小学校は今回が初めての参加で内容は■間伐体験 ■森林の話 ■コースタ作りです。

前泊地から移動し、現地到着、その後全体ミーティングを行い9班に分かれエリアに向かいました。エリアは、平坦、低木(ひのき15～16年生)で、小学生向けの最適な林地です。基本的な間伐の仕方、してはいけないこと、ストレッチをして体験に進みました。昼食をはさみ間伐、最低2個のコースタ作り、森林講話を行いました。間伐、コースタ作りではノコギリの扱いには戸惑っていました。また、ロープ引きで倒木した際は、驚きの喚声を挙げました。最後に小学生の感想発表「初めて木を切って楽しかった」、「将来、林業で働いてもよい」、「水産と林業が関係しているとは知らなかった」、「林業の大切さが分かった」、「色々なことを教えてもらってよかった」そして、小学生代表によるお礼の言葉の後、小笠原リーダーの「お家の玄関に入るまでケガしないように注意しましょう」の結びで解散となり、ヒヤリハットもなく台風一過の良き中秋の名月の活動日でした。

(記 加藤 久雄 12期)

◆ 三菱重工業株式会社 新入社員研修（間伐）

日 9月20日(金)10:00～13:00、晴れ

場 やどりき水源林

参 三菱重工(株)汎用機・特車事業本部 社員17名

県 後藤様

イ L 坂齋⑦、伊藤⑦

三菱重工(株)のCSR行動指針である

- ①地球との絆(緑あふれる地球を環境技術と環境意識で守ります)
- ②社会との絆(積極的な社会参画と、誠実な行動により、社会との信頼関係を築きます)
- ③次世代への架け橋(夢を実現する技術で、次世代を担う人の育成に貢献します)に基づき、「地球との絆」の行動の一つとして実施された。

三菱重工の平成25年4月入社社員(技能系 新入社員12名)の研修の一つとして実施。

「かながわ水源林の概要紹介」(県後藤様)、「間伐作業に関する説明」(坂齋)のレクチャーのあと2班に分かれヒノキの間伐を実施。傾斜地のため足元が悪く、全

員初めての体験であったが、インストラクターの指導の下、各班2本の間伐を行った。間伐ノコで受け口を切り始めると、ヒノキの匂いに歓声が上がった。都会の環境とは異なる森林内での体験活動に参加者は十分満足されたと思われます。事前にヒル対策の説明をしっかりとしておく必要性を感じました。

(記 坂齋 明 7期)

◆ パルスシステム神奈川ゆめコープ、

小田原市森林組合

「林業体験を通じて、森林保全における林業の役割を実感する」

日 9月21日(日)8:00~15:00、晴れ

場 小田原いこいの森

参 パルスシステム神奈川ゆめコープの顧客
親子大人14名、子供19名。

スタッフ パルスシステム： 理事長 吉中様、理事 本江様、
リーダー 西田様
小田原市森林組合： 佐藤様

イ L 白畑⑦、落合③、村井⑨

100人以上の応募でしたが、小田原市森林組合の佐藤さんからとても対応できないと30人に絞っての活動でした。(パルスシステムさんは嬉しい悲鳴です!)初めに森の中でリーダーの白畑さんが作成した「雨のつぶつぶの話」楽しい絵は森林保全の話です。10時半、8人1グループ(1組のみ9人)で4グループ編成して間伐現地へ出発。くぬぎの森でヘルメットや道具を身に着け子どもたちは初体験で心わくわくです。

子供中心の間伐は2本伐倒と玉切りが精いっぱいでした。平坦地で危険性も低く蜂も飛んでいましたが、誰も刺されず無事終了。その後のお楽しみ、コースターづくり、バームクーヘン作りに参加の皆様、喜び一杯で帰途につかれました。

アンケートは間伐が出来た事の嬉しさ、楽しさで埋め尽くされていました。

(記 村井 正孝 9期)

◆ 県民参加の森林づくり (除伐)

日 9月22日(日)7:45~13:30、晴れ

場 川崎市多摩区(多摩特別緑地保全地区)

参 64名

財 豊丸様、鳥海様 看 青木様

スタッフ 川崎市公園緑地協会 野牛様(8期)他1名

川崎市多摩区道路公園センター 1名

県森連 1名

イ L 足立④、大塚①、佐藤(恭)①、島岡③、宮本④、佐藤(武)⑤、相馬⑤、滝澤⑤、須長⑥、清水⑧、内野⑨、園田⑨、村井⑨、宮下⑩、福島⑪、柳澤⑪

よみうりランド駅から徒歩10分、住宅地のまっただなかによくぞ残っていましたと感心する、コナラとクヌギを主要木とする雑木林が今回の除伐の作業場所でした。雑木林の道を通勤通学で通る人あり、走りまわり遊ぶ子供あり、犬の散歩をする人ありで、まさに市街地の生活に密着した緑地です。川崎市の特別緑地保全地区に指定されていて開発を許さず、緑地として保全することになっています。

雑木林の林床は隙間なく繁っていましたが、ササ、ヤツデ、シュロという3種類の樹木を対象を限定して除伐を行いました。すべてを刈ってしまうのではなく繁殖力旺盛な3種類のみを除伐を行うことにより他の多様な植生を残す作戦です。

倒木の処理には手間取ったものの、コナラの木陰のもと竹挽き鋸をつかった除伐作業ははかどり、時間通り所定の範囲の刈取りを終了。昼食後広場の木陰で、川崎市の指定団体で緑地の保全活動を行っている現地団体の方の活動紹介と森林と水源についての講話を聞き解散しました。

(記 佐藤 恭平 1期)

◆ 川崎市公園緑地協会 (下草刈り)

日 9月28日(土)、曇り

場 川崎市久地特別緑地保全地区

参 30名(里山ボランティア育成講座参加者)

スタッフ 川崎市公園緑地協会 野牛様(8期)他1名
活動団体 津田山緑地里山の会 根岸会長以下数名

イ L 山崎⑫、井口かおる⑧、井口実⑧、高橋⑨

本件は(公財)川崎市公園緑地協会が企画した「里山ボランティア育成講座」6回/年の4回目講座として開催されたものです。本講座は受講生37名が6回の講座で川崎市内の公園、特別緑地保全地区等を利用し、計画から安全、管理計画等の学習と実技講習を行い、里山への関心、活動を積極的に担う人の人材育成を目的とした活動です。今回の活動は、川崎市高津区にある「久地特別緑地保全地区」で、緑地保全の考え方を活動団体の方より説明を受け、公園の植生環境による整

備の考え方、将来に向けた公園の維持管理について勉強しました。

今回の体験作業は下草刈りであるが、公園では貴重種や地域の植物を大切に守っていくようにしており、刈る種類も笹、アオキ、シュロ等 5 品種に限定した下刈りとなりました。

午前中の下草刈りでは経路周辺は指定樹種がまばらであり、参加者は手鎌や選定バサミで慎重に作業を行っていました。午後からは園内観察と下草狩りに別れ、下草刈り希望者による作業は、過去にほとんど手が入っていない沢沿いのシュロ整備となりましたが、少人数でも見違えるように明るくなりました。

また、間伐体験では選定した木にスズメバチが出入りしていることが分り、急遽作業変更をするハプニングもありましたが、幸いにも怪我やスズメバチの被害も無く無事に終了しすることが出来ました。

(記 高橋 修 9期)

◆ 日揮株式会社 パートナー林活動 間伐体験 自然観察と散策 ネイチャーゲーム

日 9月29日(日)10:00～13:30、晴れ
場 やどりき水源林
参 社員とその家族 41名(大人36名・子供5名)
県 後藤様
イ L 柏倉④、相馬⑤、齋藤⑥

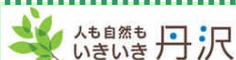
山崎⑦、黒沢⑧、吉田⑩、大塚⑩、赤崎⑫

水源林が見せる初秋の装いをたっぷりと五感にとどめながら、間伐・自然観察・ネイチャーゲームの3班に分かれて活動を行った。

およそ2時間半の取り組みを終えて再び集まった人たちの顔は喜色にあふれ蒼空に溶けているかのような。充実した水源林での思いを共有し昼食の地に向かう日揮の人たちを見送る。

(間伐:足場の悪い傾斜地で安全第一に5本間伐)
(自然観察:木の実観察等周遊道散策で自然満喫)
(ゲーム:フィールドビンゴカードで宝物さがし)

(記 柏倉 紘 4期)



丹沢の自然再生に取り組む

丹沢大山自然再生委員会ホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

◆ 横浜市立緑小学校 森林づくり活動 (間伐体験)

日 10月8日(火)10:00～14:20、晴れ
場 相模原市緑区長竹承継分収林
参 小学5年生 176名、教師等引率者 14名
財 古舘様、豊丸様
イ L 柏倉④、井出①、佐藤⑤、齋藤⑥、伊藤⑦、小野⑦、武者⑦、渡部⑦、阿部⑧、野田⑧、内野⑨、村井⑨、松山⑩、中村⑩、松本⑩、西出⑫

先日までの雨天とは打って変わり、良い天気。学校手配のバスに便乗し現地へ。各班15班に別れ用具、安全具を着用し、各区割りに行く。間伐を何故するのか、間伐の仕方を森林インストラクターから説明し、特に自分達と仲間の身を守る安全の話をして、選木の仕方を説明し、間伐開始した。一時間程度で細い木を無事に間伐。

その後、枝切、玉切をし、コースターづくり、入浴剤づくりを行った。昼食時を利用し、質問形式で“森林の働き”“健全な森林を創るためには”の簡単な講義を行った。

午後間伐の続きを行い、14時前に終了し、用具等を片付け、バスに集合。皆さん、作業を楽しみ、お土産を作って、満足そうでした。全体的に大きな怪我もなく、ヤマヒルの被害もなく、無事に終了した。でも10月にしてはとても暑い日でした。

(記 中村 公也 11期)

◆ 県民参加の森林づくり (広葉樹植栽)

日 10月9日(水)9:40～14:10、曇のち雨
場 箱根町仙石原 (町有林)
参 71名
財 豊丸様、鳥海様 看 青木様
スタッフ 箱根町役場 小山様、岡崎様
イ L 杉崎⑩、友谷①、国分③、米山④、宮本④、高崎④、齋藤(武)⑥、愛木⑦、白畑⑦、黒沢⑧、齋藤(彰)⑧、野牛⑧、柴⑩、波多野⑩、柳澤⑩、東(昭)⑫ 研 柳③、碓井⑫、西出⑫

台風24号の影響で「箱根山沿いは雨」の予報どおり、オリエンテーションの場、仙石原浄水センターの頭上は竜神(黒雲)様の踊り舞台。風も妙に生ぬるく、降ってはいないが、いざ出陣の出鼻がくじける。

参加者13～15名の5班編成で、植栽現場間の往復の移動や植栽作業は全て班行動。

植栽作業は約40年のスギの間伐後に箱根自生の木である、ヒメシャラ・イロハカエデ・ヤマボウシ・ヤマザクラの4種の落葉広葉樹を各200本、全800本植え混交林にすることです。

作業現場は間伐後のスギの玉切り片や枝葉が所々に山積され、湿って軟弱な滑りやすい傾斜地で、鍬や苗袋を持つての行動(作業)は神経を使い疲れる。

作業半ばで雨となり、雨具を着けてのちよびり寡黙で我慢の労働となったが、幸い雨脚も激しくならず、全員の協働体制で協力し合い、予定の800本を植えることが出来た。作業後は雨なのでそのままバスまで戻り、車中で昼食を摂った。バスの外(浄水センターの広場)は傘も差せぬ雨交じりの強風下。

雨の中の作業となったが、事故や怪我もなく無事に終わることが出来たことは大成功でした。

(記 杉崎 恒三 10期)

◆ ワールドフェスタ・ヨコハマ 2013

日 10月13日(日)9:15～17:15、晴れ

場 山下公園

参 約6000人

スタッフ < 丹沢大山自然再生委員会 >

- ・みろく山の会 久松様、
- ・丹沢自然保護協会 峯尾様、
- ・神奈川山岳連盟 紅葉様、他、
- ・自然環境保全センター 厚沢様、山根様、森様、
- ・かながわ森林インストラクターの会 小笠原⑩、村井⑨

私たちの会の久保理事長が丹沢大山自然再生委員会の副委員長に就いたこともあり、「丹沢大山の今」をニホンジカ・クマ、クイズを通じて普及啓発活動を一日行う。クマとシカの剥製に興味を持ってクイズに参加する人、記念写真を撮る人、剥製ではあるが、野生の本能でしょうか犬はクマに反応する。

台本はないので鹿柵内の植生調査、やどりき水源林の話、森の案内人、横浜、川崎の水源の話、水源涵養林の話、山名の由来、水源林のつどいのご案内などを盛り込んで楽しんで頂いた。他のキャンペーンと違い「大変になりました。」と礼を言われる方が多く有意義な一日を過ごしました。

(記 村井 正孝 9期)

◆ 横浜市立さの里小学校

足柄宿泊体験学習 (雨のため間伐のみ)

日 10月15日(火)、曇りのち雨

場 小田原市久野水源林

参 小学5年生 52名、教師 4名

財 古舘様

イ L西出⑫、出口④、小野⑦、白畑⑦、永松⑫

10年ぶりの大型台風が明日関東地方上陸との予報受け、今日の足柄宿泊は中止。日帰り体験学習になってしまったため、子供達は間伐だけを楽しみにバスに揺られてきたそうだ。

朝からどんより曇り空、時折雨も降ってきていたが、現地は平地で小学生の間伐体験にはうってつけの場所。うっそうとした林内は小雨も気にならないで作業ができた。時間がないとのことで山の講話は短くし注意事項を伝えて皆で伐採木を選定。ロープをかけて早速切り始める。はじめはのこぎりが使えなかったのに、2度、3度と順番が回ってくるうちに上手になり、枝打ちのあとのコースター作りは全員1人で最後まで切っていた。檜の良い香りを楽しみながら皮をむいたりして楽しそうだった。終わりの頃は雨もかなり降ってきて現地での昼食は無理なのでそのまま終了の挨拶をしてバスへと急いだ。慌ただしい間伐体験だったが雨の中、ヒヤリハットもなく終了出来、一安心でした。

(記 永松 裕子 12期)

◆ 相模原市立津久井中央小学校

間伐体験

日 10月15日(火)9:00～14:00、雨

場 相模原市ふじの体験の森やませみ

参 小学5年生 25名、教師 3名

スタッフ やませみ 島田様、山内様

イ L有坂⑧、塩谷⑦

台風26号の雨のため間伐から「焼き杉」に変更「やませみ」の島田様、山内様の指導のもと炊事場の釜戸(かまど)に火を熾(おこ)して杉の板(幅100mm～長さ300mm)を両面が薄く炭化するまで焼き、その板が冷えるのを待って真鍮(シンチュウ)ブラシで炭化した炭をおとし、素手で触っても手に炭が付かない程度まで磨き、杉の板目が見える程度までにしました。子供達は初めての作業で皆、喜んでいました。出来上がった杉の板を回りの者に自慢する子や皆が終わっても、未だ、

せつせと磨いている子もいて仕上がるまでに少し時間がかかりましたが、全員の板が出来上がった時点で今度は「やませみ」で準備をしていただいた、ヒマワリの種、細い竹を短く切ったもの、サクラやケヤキの木片等をボンドで板の上に接着して自分だけの作品を作り机の上に並べ皆で自慢していました。

午後は囲炉裏(いろり)のある部屋で塩谷、有坂が「森と林業」の話をして、質疑応答があり少しは児童達の勉強の足しになったかな・・・？ 津久井中央小学校では3学期には森林の勉強もするとのことで、塩谷さんの話などはとくに参考になったと思います。

最後に児童達は「やはり間伐も体験したい」と話していました。雨のため間伐ができず非常に残念でした。

(記 有坂 宗二 8期)

◆ 日揮株式会社

やどりき近辺の山歩き

日 10月19日(土)9:00~17:00、曇り

場 寄大橋~雨山峠~雨山~檜岳~寄大橋

参 日揮(株)社員 17名

イ L 佐藤武晴⑤

日揮(株)パートナー林活動として、色づき始めたやどりき近辺の山歩きを楽しみたいとの要望に応えました。佐藤恭平氏(1期)、坂井謙介氏両リーダーと15名のメンバー(女性12名、男性3名)、夕方からは雨が予想される曇り空の中、雨に降られる前に無事下山しました。

朝、8:40新松田駅を4台の車に分乗して寄大橋の駐車場に向かい、やどりき集会棟前を出発したのは9:25、やどりき沢を遡り雨山峠到着は12:10、ここで昼食を済ませ、雨山~檜岳稜線を歩き、檜岳から作業道を経て16:40寄大橋到着でした。

台風26号の後でコースの荒れが心配されたが、寄沢の渡渉も何とか通過、コース上には枯れ枝や倒木など障害物があったが通行不能箇所はなかった。日中は天気は少し回復し、雨山の登りでは冠雪した富士山が観られて皆さん非常に喜んでいました。稜線では真鶴半島や江の島など相模湾の景色、箱根の山々などの眺望が、また、雨山峠付近ではイワシャジンの可憐な花に出会えた。解散時間がおよそ1時間遅くなってしまったが、皆さんからは楽しかったとの感想、笑顔で家路に着くのを見て一安心でした。

(記 佐藤 武晴 5期)

◆ タカナシ乳業株式会社

森林整備 & 森林癒し

日 10月19日(土)10:00~15:00、曇り

場 やどりき水源林

参 社員とその家族 17人(大人14名、子供3名)

イ L 宮下⑩、高崎④、草野⑧、青木⑩、安井⑫

台風直後であったため活動が危ぶまれたが、現地は活動には支障はない状況であった。新松田からやどりき水源林へのバスの中では、事前に水源林の話や活動について参加者に説明。オリエンテーション後、模型の緑のダムを使い水源涵養機能を実演。木々が無い時の表面を流れる水や木々が有る場合の水の浸透に興味津々であった。

フサザクラが林立するタカナシの癒しの森で溪畔林の特徴や役割を説明。本日の安全目標「足元注意」を全員で確認後、枯損木の伐採や枝の整理などの森林整備、伐採した木を利用したベンチづくりの各グループに分かれ活動開始。伐採は枯損木のため少々やりがい不足であったが、基本的に従い伐採を。ベンチづくりは前回に続き二基目。なかなかの出来ばえであった。今度は自然の石のテーブルと手作りのベンチでハーブティーを頂くことを約束。林内は台風直後であったため枝が散乱。午後の癒し体験が出来る程度に枝の片付けなどの林内整備を行った。

午後、子供たちはドングリや自然の素材を利用した工作を。大人は、森林浴、ハンモックでの森林安息、林の中でねっ転がり樹幹のゆらぎを見るなど、ゆったりとした雰囲気での癒し体験を。最後に杉の丸太切りに挑戦。刻印入りのコースター作りを楽しんだ。出来た作品は記念のお土産になったのではないのでしょうか。事故もなく充実した一日であった。

(記 宮下 修一 10期)

◆ 横浜市立能見台南小学校

足柄宿泊体験学習 自然観察

日 10月19日(土)10:00~14:30、曇り

場 県立21世紀の森 天然の森コース

参 小学5年生 152名、教師等引率者 11名

イ L 杉戸⑥、井出①、友谷①、高橋③、宮本④、中村⑩、松永⑩、永松⑫

曇りの天気の中、21世紀の森の子供の広場に10時過ぎに、集合した。始めの会の後、4組各組2グループ、

計8グループに分かれ、ストレッチ体操後、森林インストラクターから注意事項を説明し、順次出発した。

セントラル広場まで、コブシ、ハウノキ、ツリフネソウ、各種どんぐり・木の実等の自然観察をしながら、歩いた。アケビの古くなったもの、ぶよぶよしたイヌガヤの実、黒くなったハウノキの実を子供達は気持ち悪がっていた。休憩所近くの野外で昼食をした。曇りの天気ながら、雪化粧した富士山がくっきりと見られ、子供達も喜んでいました。昼食後、下り、予定通り、子供の広場に集合し、終わりの会を経て、終了した。

皆さん、自然観察を満喫したように見えた。怪我も事故もなく、無事に終了した。

(記 中村 公也 11期)

◆ 川崎市公園緑地協会 (竹林整備)

日 10月19日(土)、曇り

場 川崎市栗木山王山特別緑地保全地区

参 26名(里山ボランティア育成講座参加者)

スタッフ 川崎市公園緑地協会 野牛様(8期)他3名
活動団体 (株)富士通

イ L山崎⑫、安部⑧、門沢⑫

本件は(公財)川崎市公園緑地協会が企画した「里山ボランティア育成講座」6回/年の5回目講座として開催されたものです。本講座は受講生37名が6回の講座で川崎市内の公園、特別緑地保全地区等を利用し、計画から安全、管理計画等の学習と実技講習を行い、里山への関心、活動を積極的に担う人の人材育成を目的とした活動です。

今回の活動は、川崎市麻生区にある「栗木山王山特別緑地保全地区」で、活動団体の考え方の説明を受け、竹の入り込んだ広葉樹林を、元の植生環境に戻す実践cs、将来に向けた公園の維持管理に基づいて実践しました。今回の体験作業は間伐であるが、管理地区は貴重種や地域の植物を大切に守っていくようにしており、発見したら踏み荒らさない様注意しながら、竹の皆伐を行いました。

午前、午後の間伐では、鋸折れのリスクを回避するため、竹鋸は使用せず枝打ち鋸を使用し、安全に注意しながら慎重に作業を行っていました。怪我も無く無事に終了することが出来ました。

(記 山崎 博 12期)

◆ 三菱重工業株式会社 間伐作業

日 10月21日(月)10:00~13:00、曇り

場 やどりき水源林

参 三菱重工業(株) 汎用機・特車事業本部 18名

県 後藤様、増田様

イ L坂齋⑦、伊藤⑦、小沢⑨

三菱重工業の事技系新入社員の方16名が間伐体験の為やどりき水源林を訪れました。

朝のオリエンテーリングでかながわ水源林のお話の為、全員にやどりき水源林マップを配布森林づくり、水源林の整備等についてリーダーから説明が有り、準備体操で体をほぐし3班に分かれそれぞれがヘルメット、鋸を身につけ各班にロープ、ロープかけ用竹竿を持っていざ間伐林へ入る。

各インストラクターより本日の間伐作業についての意味、注意事項等の説明をして、全員が間伐作業を順次体験して頂いた。枝払い、玉切り後山のお話をさせて頂きながらお土産とノコの体験をかね、コースターを作る。より薄く一、数をたくさん、それぞれの思いで楽しんでいました。

道具の手入れを行い全員無事に山を下り、やどりき森の案内人のお話をさせて頂きやどりきへの再訪を期待してお別れしました。

(記 小沢 章男 9期)

略語の説明

日：日付、 場：場所、 参：参加者、

県：(神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)

財：((公財)かながわトラストみどり財団) 看：看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合・XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ：インストラクター (○数字：期) 研：研修枠

ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>

かながわの水源環境の
保全・再生をめざして



やどりき水源林 ミニガイド

11月のトピック

秋と言えば紅葉ですが、10月ザクラが見事に咲いています。4月頃まで咲いています。ご覧あれ！！



(寄大橋脇 11.3)

12月の水源林

前半は紅葉がとても綺麗です。後半は秋から冬への変化が見られます。

「森の案内人」情報

(12月 1月 2月 は休止です)

(来春のお越しをお待ちしています) 来春より

- 実施時間:毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時、1~2時間程度
- 集 合:水源林入口ゲート前
- 内 容:森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ:(公財)かながわトラス
みどり財団 TEL:045-412-2255
携帯:090-8580-5348
FAX:045-412-2300

- ホームページ:<http://www.ktm.or.jp>
- E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

森のふれあい館

企画展 2013/12/1~2014/2/28

『動物の冬越し展』

主な内容: ・雪中で活動する動物
・穴ごもりする動物 ・冬眠する動物
・食べ物を貯える動物 ・昆虫の冬越し
・冬の水辺の野鳥、森の野鳥、巣箱

神奈川県足柄下郡箱根町箱根 381-4
森のふれあい館 9時~16時半
入館料 大人650円、平日中学生650円、小学生400円、土日祝日の小中学生は無料
問い合わせ先:森のふれあい館 0460-83-6006
関連サイト:<http://www.hakone.or.jp/morifure>



◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>
松本 保

Mail: matsutamo@jcom.home.ne.jp

Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865

横浜市神奈川区片倉 2-1-50

Tel: 090-6150-6173

Mail: s_akasaki-k_instructor@live.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail: matsutamo@jcom.home.ne.jp

【別冊】水口 俊則

〒250-0871

小田原市下堀 123

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mail: minagold109@k.jd.biglobe.ne.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町 3-7

Tel/Fax: 046-825-9281

Mail: 2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

原稿は随時受け付けています。

編集後記

★秋はイベントが目白押し。覚悟していたのですが、やはり多忙を極めました！！

(赤崎)

★今年の秋は、木の実集めに大奮闘しました。クラフト用には、栃・モミジバフウ・松ボックリ・ドングリ・ムクロジ等たくさん収穫しました。どんなクラフトを作ろうかと、楽しみながら乾燥させています。ついでに、ガマズミや花梨も初挑戦しましたので、山の神祭りに持って行きます♪

(大塚)

★これから忘年会やらなにかと飲み会の多い時期ですね。後悔しない様、飲み過ぎには注意しましょう。

(水口)

★今年も残り1ヶ月お陰様で皆様に助けられて無事活動を終了します。感謝の気持ちで一杯です。

(小沢)

★11/17 箱根芦ノ湖西海岸の真田浜で鳥のホシハジロとキンクロハジロが群れで仲良く泳いでいました。今年も遠い所からいらっしゃったのですね。

(松本)

「森のなかま」に広告を提供して頂いています<こまち>さんのご主人がお亡くなりになりました。

—謹んでご冥福をお祈りします—
(広報部一同)

◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。
(頒 価 200円 送料共)

- 編集人: 松本 保
事務局: 竹島 明
広報部: 小沢章男 水口俊則
鈴木 朗 鈴木松弘
大塚晴子 加藤暖子
赤崎さほり
支援 川森健司 谷川 克
一時休み 真貝 勝 徳岡達郎

まつだキラキラフェスタ 11/23~12/25



・点灯時間
11/22~12/19 17時~21時
12/20~12/25 17時~22時

・場所
西平畑公園(松田山ハーブ館)

・問い合わせ先
TEL0465-85-1177 松田山ハーブガーデン
TEL0465-83-1228 松田町役場環境経済課

延命寺 蔵の市(ダルマ市) 12/28



山や散策、ボランティア活動のお帰りにどうぞ！！

山麓のオアシス ㊄

小田急 新松田駅
踏み切り際

緑の募金箱協力店

こ
ま
ち